



ニホンアナグマ

かわはく No.54

CONTENTS

特別展開催報告「魚と人の知恵比べ～魚の生態と伝統漁法～」	2
休館のお知らせと休館中事業のご案内	3
秋期企画展「地面の下をのぞいてみよう～埼玉の地下に潜む自然誌～」	4
2015年国際土壌年記念巡回展「土ってなんだろう？」イベント開催報告	5
イベント開催報告：かわはくシルバーウィークまつり	6
荒川流域の高低差まるわかりMAPのご案内	6
特集コラム：シリーズ堤防の話 第2回「都幾川の旧堤」	7
イベント開催報告：お月見体験・月よりダンゴ	7



平成27年度特別展開催報告

魚と人の知恵くらべ

～魚の生態と伝統漁法～

開催期間：平成27年7月18日～8月31日

本展示では荒川をはじめとする埼玉県の河川で親しまれてきた魚と、営まれてきた伝統漁法を紹介しました。また、川魚の食文化や信仰についても取り上げました。内容について報告します。

●リバーホール

本展示のメインは第二展示室ですが、リバーホールに体験コーナーとして大きな^{うり}釜を製作しました。戸田市に伝わる釜のひとつである「セイド」をモデルにし、「魚の気持ちになってみよう」というテーマで人間が入ることができる大きさにしました。期間中は子どもたちを中心に、簡単に入ることができても、出ることは難しいことを体験してもらいました。

また、魚類の生体展示も実施しました。川の恵みとして珍重されていたニホンウナギ、ナマズの2種を展示しました。展示したニホンウナギは2009年の秋期企画展「川と海を旅する魚たち」の際当館にやってきました。それ以来約6年を経て、本展示でも子どもたちの人気者としてふたたび活躍してくれました。

●伝統漁法で使われた漁具

第二展示室では、本展示のメインとして荒川などの伝統漁法で使われた漁具を展示しました。

まず、ナマズを獲るために使われた大きなナマズ釜は、完成に至るまでの製作工程も展示しました。かえしが二重になっていることで魚が逃げないような構造になっているなど、様々な工夫をわかりやすく展示しました。

また、ウナギを獲るためにつくられた釜は魚体の特徴から細長いことだけでなく、構造もかえしが無いポッポなどもあり様々です。釜漁だけでな

く多様な漁法で捕られていたウナギは、特に珍重されていたこともうかがえます。

●食文化や信仰

海のない埼玉県ではウナギ、ナマズ、アユなどが珍重され、現在でも川魚料理店で食べることができます。本展示ではアユ料理や吉川市が特産として有名なナマズ料理を紹介しました。担当学芸員は実際に現地でナマズ料理を食し、そのおいしさを伝えたつもりです。

また、江戸期にナマズは災禍の元凶とされていて、末期の安政地震の発生直後から復興まで、風刺を描いた浮世絵「鯰絵」を紹介しました。また、三郷市でおこなわれているウナギ供養など、魚にまつわる信仰についても紹介しました。

●企画展関連イベント

かわはく夏まつりでは、ナマズの街である吉川市よりブースの出展として、ナマズグッズと吉川市のPRをしていただきました。マスコットキャラクターの「なまりん」も猛暑の中、登場しました。

関連イベントのメインであった「伝統漁法体験」は埼玉中央漁協寄居支部の方々の協力を得て8月20日に開催が予定されていましたが、天候不順により中止になってしまいました。毎年開催していたイベントですが、このような機会に中止になり大変残念です。

現在川魚は川の環境変化などで減少し、消費する機会も少なく、荒川での生業の漁業者はいなくなってしまうなど、さびしい限りですが、展示を通して川の文化のひとつとして伝えられればと感じました。

(研究交流部 藤田宏之)



写真1：巨大釜などリバーホール展示

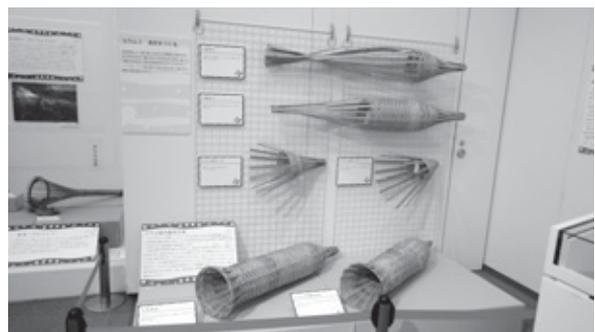


写真2：ナマズ釜の製作工程



休館のお知らせ

川の博物館は、設備改修工事を行うため、

平成27年12月1日(火) から平成28年3月31日(木) まで休館いたします。

ご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解くださいますよう、お願い申し上げます。

休館中は、出張授業等は従来通り実施します。また、館外イベントや講座、共催展示等の教育普及事業も実施します。是非ご参加ください。

休館中事業のご案内 (p4とイベント情報コーナーも併せてご覧ください)

○図書館パネル巡回展「もしもに備える～自然災害に学ぶ～」

当館では、お客様の防災意識を高めて頂くために、これまで数回にわたり防災関連の企画展を開催し、主に埼玉県内に被害をもたらした「自然災害」について紹介してきました。

休館中は、当館から中距離にある県内外の図書館3館において、防災や減災について考える巡回展示を行います。日本に住む私たちが直面するかもしれない「自然災害」について、パネルや写真等で紹介します。

起こりうる「自然災害」の種類やリスクは、住んでいる場所、地域によって異なります。もしも今、「自然災害」が起きたとしたら・・・その備えは万全ですか？

常に変化し続けている自然（大気現象や大地の活動など）は、私たちに恵みを与えてくれる一方で、時々牙をむくことがあります。「自然災害」は、さまざまな自然現象の結果としてもたらされますが、その自然現象そのものがよく分からないために、ひととために「なにか怖いもの」という印象を持たれがちなのように思います。これを拭い去るには、私たち1人1人が、自然災害につながる自然現象のメカニズムを正しく理解することが必要不可欠です。

もしもの時には、自分で考えて行動できる力が

大切になります。そのために、自然現象を「知る」こと、地域の過去の自然災害を「知る」ことから備えをはじめてみませんか？展示を通して、身近なところにはどこにどのような危険があるのかということ、1人1人が自分の問題として「考える」きっかけづくりともなれば、と考えます。

私はこの展示を担当させて頂いていますが、学芸員としてだけでなく、防災士としても、多くの方々に情報を発信することができればと考えています。その一環として、それぞれの展示開催地では、私が講師としてワークショップを開催させて頂きます。

一般の方を対象とした「地域防災のためのワークショップ」では、ハザードマップの見方やその活用方法についてお話しし、その後、地図を使ったグループワーク（図上演習）を行う予定です。

小学生を対象とした「親子のための防災ワークショップ」は、必ず子供と保護者のペアで参加してもらいます。これは、単なる工作教室ではなく、家庭に戻ってから家族での話し合いの場づくりができるよう、その場だけで終わらせない、「考える防災」が狙いのためです。

(研究交流部 杉内 由佳)

○荒川ゼミナール「歩いて学ぶ、地形と防災」

休館中のイベントとして、ウォーキングイベント、荒川ゼミナール「歩いて学ぶ、地形と防災」を開催します。全4回の予定です（日程等に関しては、裏表紙をご覧ください）。

吉見町に残る水防施設「水塚」の見学や、首都圏外郭放水路の見学、荒川流域に整備された様々

な種類の堤防の見学、そして「標高」の基準となっている場所の見学などを予定しています。

冬場の寒い時期ではありますが、防災の知識、そして地形の成り立ちの不思議さ等を、当館スタッフと一緒に歩きながら学んでみませんか？参加お待ちしております。(研究交流部 羽田 武朗)



地面の下をのぞいてみよう～埼玉の地下に潜む自然誌

開催期間：平成27年9月19日～11月15日

自然を観察する時にあたりを見回すと目に入る、山、川、空、鳥、森とそこに棲む動物…。私たちは地上に見えているものに目をとめます。しかし、すぐに目に入らない地面の下にも自然はひろがっています。また、地面の穴は私たちの歴史や生活と結びつくこともあります。今回の展示では目立たないかもしれない地面の下に注目してみました。

●植物の根

根は地面の下に広がり、木や草を支えます。展示ではニセアカシア（ハリエンジュ）の根と竹の根の実物を展示して、水平方向に張り巡らされている根あるいは根茎の様子を見られるようにしました。

●地面の下を利用する生き物たち

アナグマは名前の通り、地面を掘って巣穴にします。またキツネやタヌキも穴を利用します。またモグラは地面の下にトンネルを掘って生活しますし、ネズミにも地面の下を利用する種がいます。ヘビも穴を利用することをご存知でしょうか。このような生き物を標本や映像で紹介しました。

●トンネルをくぐってお勉強！

地面の下をのぞくには、トンネルをくぐるのが一番！ということで、段ボールを使ってトンネルをつくり、その中で地面の下の様子を紹介しました。地面の下に広がる土は山から平野までをモノリス（土壌標本）で紹介しました。生き物は溪流の石の下に卵を産むサンショウウオや、山のごろごろした石と落ち葉の層の間に生活するガロアムシ、アリの巣の様子、平野部に広く見られ、石の下で越冬するカナヘビやハサミムシを、ジオラマ

などを使って紹介しました。また、秩父市内にある橋立鍾乳洞の様子を写真で見せて、洞窟の雰囲気味わえるようにしました。トンネルをくぐって地面の下を堪能できたでしょうか？

●人の生活と関わりのある穴

埼玉県で有名な穴と言えば吉見百穴でしょう。これは古墳時代後期の横穴墓群ですが、戦時中に洞窟を掘って地下軍需工場として利用された歴史もあります。「穴」と聞くとトンネルをイメージする方もいらっしゃるかも知れません。トンネルの中には手掘りのものもあり、生活の道として必須だったことが偲ばれます。例として矢通反隧道を紹介しました。

●天然の洞窟

天然の洞窟はそのでき方によっていくつかの種類に分けられますが、中でもおそらく皆さんが最もイメージしやすい鍾乳洞や、県内唯一の観光鍾乳洞である橋立鍾乳洞について解説しました。

(研究交流部 森圭子)



地面の下に張り巡らされた木の根

「地面の下をのぞいてみよう～埼玉の地下に潜む自然誌」 巡回展示のご案内

本展示は当館終了後、当館の休館中の活動として、埼玉県東部の資料館で巡回展として開催を予定しています。巡回展は3館のご協力をいただき、上記の展示の一部と、生きものに関する県東部のトピックなどをアレンジしての展示となります。

(研究交流部 藤田宏之)

場 所	宮代町郷土資料館 TEL：0480-34-8882	春日部市郷土資料館 TEL：048-763-2455	久喜市立郷土資料館 (パネル展示) TEL：0480-57-1200
展示期間	1月9日(土)～3月6日(日)	3月23日(水)～5月8日(日)	1月23日(土)～3月6日(日)



2015年国際土壌年記念巡回展「土ってなんだろう？」 かわはくで行った関連イベント報告

開催期間：2015年5月30日（土）～6月21日（日）

2015年は国連が定めた「国際土壌年」です。埼玉県立川の博物館は、一般社団法人日本土壌肥料学会および日本ペドロジー学会と共催で巡回展「土ってなんだろう？」を巡回展として開催していますが、かわはくでの展示期間中に実施した関連イベントについて報告します。

○ミニモノリス（土壌標本）をつくろう

開催日：6月6日（土）

このイベントはかわはくでは初めて実施しました。モノリスとは実際の土壌を切り出した標本です。そのような標本は採取するのに時間がかかりますし、大きなものになります。今回はそれを縮小して再現し、アート作品のような土のミニチュア断面を楽しもうという趣旨で実施しました。

初めにかわはくに準備した実際の断面を観察し、土の断面とはどんなものか、スケッチをしてイメージを持っていただきました。材料は観察したかわはくの敷地内の土壌断面と、展示していた土壌断面です。深さによって色や粒の形が異なるので、一つの断面で5種類ほどの素材になります。それらを実際に見た断面のイメージでフレームにのせて木工用ボンドで接着しました。

断面を選んでつくってもらいましたが、時間と材料に少し余裕があったので、最終的には2つ作成した参加者が多くいらっしゃいました。



○泥染めに挑戦（兼かわはく体験教室）

開催日：6月13日（土）

泥染めは、お子さんから大人の方まで幅広い年齢層での実施となりました。今回は土を使った染色ということで「泥染め」というタイトルですが、2つの方法があり、一つはいわゆる草木染めの媒染剤として土を使うもの、もう一つは土そのもので色を付ける、というもので、埴染めと呼ばれることもあります。

前者について、今回は荒川の近くによく見られる外来種であるニセアカシア（ハリエンジュ）を使いました。そして媒染剤ですが、土を使う場合、

土の中の金属類が作用します。今回は特にアルミニウムが多い土（火山灰由来の土壌）と、鉄が多い土（水田土壌）を選んで用いました。土の成分によって染めた後の色が異なる、ということを感じさせるためです。また、媒染剤として市販されているものは単一の金属が作用しますが、土の場合は多い・少ないがあるものの色々な金属が入っているため、柔らかい風合いに仕上がります。

後者は赤い土を砕いたものを少量とって水に溶き、その中で布をもむ、といういたって単純な方法で染めました。元の土の色のようなはっきりとした赤土の色ではありませんが、埴輪の色に近いような、赤い色に染まりました。

○土の呼吸を調べよう

開催日：6月14日（日）

土が呼吸している、ということをご存知でしょうか？そして土は地球温暖化の問題と深く関わります。今回は「(独) 農業環境技術研究所*」というところから岸本文紅氏、大浦典子氏に来ていただき、研究所で実際に土の呼吸量を調べる機械を動かしながら解説して頂きました。土のことをよく知りたい、という参加者が熱心にお話に参加していらっしやっただけが印象的でした。

*現 国立研究開発法人農業環境技術研究所



デモンストレーション用の機器とパネルで解説

他にも「光る！泥だんごづくり」を5月30日に、「土の秘密を調べよう（かわはく研究室）」を6月21日に実施しました。このようなイベントで土に触ることや、土はどうやってできる？粘土とは何？といったお話しを通して土をより身近に感じて頂ければと思います。（研究交流部 森圭子）



イベント開催報告

かわはくシルバーウィークまつり

9月20日～23日の4日間、かわはくSW（シルバー・ウィーク）まつりを開催いたしました。

20日は比企郡を中心とする文化施設の団体「文化の森」のまつりも同時開催。国営武蔵丘陵森林公園（滑川町）のマスコットキャラクター「しんくん」が遊びに来てくれましたし、JAXA地球観測センター（鳩山町）による宇宙飛行士選抜試験の体験では、鏡に映った形をなぞってみることに挑戦してもらい、参加した方は「難しい～」と言いながら、左右反対に映った形を一生懸命描いていました。21日、22日は木琴づくりや、どろ団子・こけ玉づくりなど10種類の工芸品づくりが体験できる「必殺職人集団による工芸品づくり体験」を行ないました。参加した多くの方から「楽しかった」と声をかけられました。またリバーホールでは、畳職人さんの実演などが行われ、分厚い畳に畳表を手際よく縫い付けてゆく職人技を、皆さんが感心しながら見学していました。

（広報担当 若目田葉子）



畳職人の宮崎さんによるパフォーマンス



SWまつりに遊びに来てくださった皆さんとカワシロウ、しんくん、油井亀美也さんの等身大パネルと記念撮影（来年の4～9月当館の行事案内の表紙になります！お楽しみに）

荒川流域の高低差まるわかりMAPのご案内

このたび、当館オリジナルの地図「荒川流域の高低差 まるわかりMAP」の企画・制作を担当させて頂きました。両面カラー、A1サイズのポスター地図で、折り畳むとA4サイズになります。裏面には地図の見どころについて、テーマごとに分けて解説を載せました。

地図の範囲は、当館の所在地である埼玉県寄居町から荒川河口までの「荒川流域」を中心に、「埼玉県東部地域」や「武蔵野台地」もカバーしています。

この地図の最大の特徴は、高低差を「色」の違いで視覚的に実感できることです。地形が一目でわかるように、標高を細かく色分けしました。特に、低地の微妙な地形の高低差（微地形）が見えるように、標高0～20mまでは2mおきに、20～40mまでは4mおきに地図を色分けしたことにより、今日都市化によって見えにくくなってしまった地形のありのままの姿を知ることができます。また、「私たちはどのような場所に住んでいるのだろうか？」とか、「あの場所って、こういう地形だったんだ～！」などといった、ふとした疑問にも答えてくれます。

地図中には、一級河川のうち代表的な河川名を記し、荒川水系の川と、それ以外の水系の川との区別ができるように、文字表記を工夫しました。

裏面の解説では、「荒川の概要」、「荒川の歴史」、「自然が作った地形（河岸段丘や海食崖、旧河道や自然堤防など）」、「人が作った地形（河川改修された川、堤防、スーパー堤防、埋立地など）」、「河川にまつわる言葉」に加えて、これらを凝縮したような場所である「川幅日本一」周辺の地形についても紹介しています。これらの解説を通して読むだけでも、荒川と荒川周辺の地形のなりたちについての、考え方の基本を学ぶことができるようにしました。

この地図は、当館の本館受付にて、1部300円で販売しています。地図好きの方はもちろん、荒川についてもっと知りたい方、身近な地形について興味のある方も必見です！自分の住んでいる場所が、地形的にどのような場所なのかを知ることは、防災・減災にもつながります。ぜひ、実物のMAPを手に取り眺めて、地形の高低差を実感し、新たな発見を楽しんでください。（研究交流部 杉内 由佳）



◆ 特集コラム ◆
シリーズ堤防の話

第2回

「都幾川の旧堤」

先号からスタートした特集コラム「シリーズ堤防の話」。今号は第2回目となります。

先号では、坂戸市内の高麗川左岸側に残る「霞堤」について紹介しました。今号では、東松山市内の都幾川左岸側に残る「旧堤」について紹介します。

現在、多くの河川に堤防等の水防施設が整備され、水害から私たちの暮らしを守ってくれています。堤防をはじめとするこれら水防施設の大半は、これまでに発生した過去の水害や、想定される河川の水量等を考慮した上で、計画・整備が進められます。

特に堤防は、現在の大規模な堤防が整備される以前から、何度も何度も作り変えられてきており、まさに水害の歴史を現代に伝える「史跡」と呼ぶこともできるのかもしれませんが。

新たに堤防を整備するにあたり、これまであった堤防を利用し、嵩上げや幅の拡張等が行われることもあります。場所によってはやや離れた場所に新たに堤防が築かれる場合もあります。

このような場合、それまであった堤防はその役目を終えます。この役目を終えた堤防のことを、「旧堤」といいます（造り替えが必要な堤防を旧堤ということもあります）。

この役目を終えた堤防、旧堤は、その後壊されることもあります。副堤（控堤・二番堤。堤内地に整備される堤防。本堤が決壊した時に浸水被害を最小限にとどめる）として、現地に残される場合もあります。

東松山市内の都幾川左岸側には、まさに副堤の役割を果たすような形で旧堤が残されています（写真参照）。この旧堤は、高坂～東松山間を通過する東武東上線の車窓からも見ることができます（上り電車の場合は進行左側、下り電車の場合は進行右側）。実はこの場所（東武東上線都幾川橋梁）、反対側（都幾川の上流側）には、蛇行して流れていた頃の都幾川の旧河道が残されている場所でもあります。

普段、何気なく乗っている東武東上線かもしれませんが、乗車しながら実は川の歴史（水害の歴史）も学ぶことができるスポットが点在しています。この記事をお読みになりましたらぜひ一度、川の歴史を感じながら電車に乗ってみてください。普段とは一味違った「鉄道の旅」ができるかもしれませんよ。（研究交流部 羽田 武朗）



東上線の車窓からも見える都幾川の旧堤
(東松山市上野本・下押垂)

堤防が二重になっている場所のうち、写真右手側の堤防が新しく整備された堤防。左側が旧堤。

イベント開催報告

かわはくであそぼうまなぼう
お月見体験・月よりダンゴ

9月27日（日）に「お月見体験・月よりダンゴ」を行いました。

十五夜のお供え物は盗んでも良い、という風習を紹介しました。前日が雨だったため当初予定していたファミリー広場での実施を取りやめ、本館リバーホールでの実施となりました。参加者の方には十五夜の飾りつけを参考に3問のクイズを解いてもらいました。その後、交流員とだるまさんが転んだゲームを行い、見つからずにダンゴを串で刺すとご褒美で食べられます。みなさん無事にダンゴにありつけていました。イベント当日が本当の十五夜に当たり、さらに今年はスーパームーンの1日前とあって大きな丸い月を見ることができたでしょう。十五夜を行った方には十三夜もお願いしますと伝えイベントを終了しました。

今年の十三夜は10/25でした。

(研究交流部 石井克彦)



だ〜るまさんがこ〜ろんだ！でうまくダンゴがとれるかな？



12月

5/土
荒川ゼミナール
歩いて学ぶ、地形と防災「吉見町の水塚探検」
 集合：JR鴻巣駅西口（予定）
 時間：10：00～16：00（予定）
 費用：100円（保険料）
 定員：20名（申込順）
 内容：吉見町に残る水塚を見学しながら、水防施設について学びます。

23/水・祝
かわはくミニまつり（下記参照）
 場所：寄居町立図書館・2F/アトリエ他
 時間：11：00～15：00

1月

1/9/土～3/6/日
宮代町郷土資料館（電話：0480-34-8882）
資料館巡回展示「地面の下をのぞいてみよう～埼玉の地下に潜む自然誌～」

1/23/土～3/6/日
久喜市立郷土資料館（電話：0480-57-1200）
資料館パネルミニ展示「地面の下をのぞいてみよう～埼玉の地下に潜む自然誌～」

1/7/木～1/24/日
吉川市立図書館（電話：048-984-1888）
図書館パネル巡回展示「もしもに備える～自然災害に学ぶ～」

1/26/火～2/24/日
八潮市立八條図書館（電話：048-994-5500）
図書館パネル巡回展示「もしもに備える～自然災害に学ぶ～」

9/土
かわはくミニまつり（下記参照）
 場所：深谷公民館
 時間：11：00～15：00

17/日
防災士と学ぶ「地域防災のためのワークショップ～ハザードマップの見方とその活用～」
 場所：吉川市立図書館（電話：048-984-1888）
 時間：13：30～16：00
 費用：無料
 対象：一般
 定員：20名
 内容：はじめに「ハザードマップとは何か？」ということをお話します。後半は、地図を使ったグループワーク（図上演習）と、そのまわめを行います。

24/日
かわはくミニまつり（下記参照）
 場所：はにぼんプラザ・イベントスペース
 時間：11：00～15：00

29/金
荒川ゼミナール
歩いて学ぶ、地形と防災「首都圏外郭放水路探検」
 集合：東武アーバンライン（野田線）南桜井駅
 時間：10：00～16：00（予定）
 費用：100円（保険料）
 定員：30名（申込順）
 内容：埼玉県東部の地下に造られた巨大な放水路の見学をします。

30/土
かわはく体験教室「ミニモノリスづくり」*
 場所：小川町立図書館・地階展示ギャラリー
 時間：13：30～15：00
 費用：200円（材料費）
 定員：20人（申込順）
 内容：土の断面の様子を実物の標本（モノリス）で観察し、それを縮小して再現します。アート作品のようなオリジナルモノリスができます。

31/日
かわはくミニまつり（下記参照）
 場所：小川町立図書館・地階展示ギャラリー
 時間：11：00～15：00

2月

7/日
防災士と学ぶ「親子のための防災ワークショップ」
 場所：八潮市立八條公民館
 （電話：048-994-3200）**申込先**
 時間：13：30～14：30
 費用：無料
 対象：小学生以上
 定員：15組（子供と保護者の方のペアでの参加となります）
 内容：身近なものを使った、もしもの時に役立つグッズ作りを体験し、家庭での防災を考えます。

14/日
かわはくミニまつり（下記参照）
 場所：寄居町図書館・2F/アトリエ他
 時間：11：00～15：00

20/土
かわはく体験教室「ミニモノリスづくり」*
 場所：秩父市立図書館・視聴覚室
 時間：13：30～15：00
 費用：200円（材料費） 定員：20人（申込順）
 内容：土の断面の様子を実物の標本（モノリス）で観察し、それを縮小して再現します。アート作品のようなオリジナルモノリスができます。

荒川ゼミナール 歩いて学ぶ、地形と防災「荒川の堤防探検～山付堤と横堤～」
 場所：JR桶川駅西口（予定）
 時間：10：00～16：00（予定）
 費用：100円（保険料）
 定員：20人（申込順）
 内容：荒川流域に整備された様々な堤防のうち、山付堤と横堤の見学をします。

21/日
かわはく体験教室「ミニモノリスづくり」*
 場所：熊谷中央公民館・3の1
 時間：13：30～15：00
 費用：200円（材料費） 定員：20人（申込順）
 内容：土の断面の様子を実物の標本（モノリス）で観察し、それを縮小して再現します。アート作品のようなオリジナルモノリスができます。

27/土

3月

3/23/水～5/8/日
春日部市郷土資料館（電話：048-763-2455）
資料館巡回展示「地面の下をのぞいてみよう～埼玉の地下に潜む自然誌～」

3/1/火～4/24/日
新宿区立戸山図書館（電話：03-3207-1191）
図書館パネル巡回展示「もしもに備える～自然災害に学ぶ～」

6/日
かわはくミニまつり（下記参照）
 場所：深谷公民館（公民館祭り）
 時間：10：00～15：00

12/土
防災士と学ぶ「親子のための防災ワークショップ」
 場所：新宿区立戸山図書館
 （電話：03-3207-1191）**申込先**
 時間：14：00～16：00
 費用：無料
 対象：小学生以上
 定員：20組（子供と保護者の方のペアでの参加となります）
 内容：身近なものを使った、もしもの時に役立つグッズ作りを体験し、家庭での防災を考えます。あわせて自然災害について学べお話しします。

21/月・祝
荒川ゼミナール 歩いて学ぶ、地形と防災「佃島と日本水準原点をめぐるウォーキング」
 集合：東京メトロ有楽町線永田町駅（予定）
 時間：10：00～16：00（予定）
 費用：100円（保険料）
 定員：20名（申込順）
 内容：かつての荒川のゴール佃島の見学と、A.P.,T.P.の違いについて歩きながら学びます。

申込先 申込先は各会場となります。かわはくでは受付できませんのでご注意ください。

*「ミニモノリスづくり」会場の駐車場には台数に限りがありますので、公共機関での来場をお願いいたします。

かわはくミニまつりのご案内

カワシロウがあなたの町に遊びに行きます！かわはく特製「カワシロウ折り紙」、オリジナル缶バッジづくりなど、ミニイベントを開催します！当日参加OKで、缶バッジ作りのみ200円の参加費が必要です。材料がなくなり次第終了となります。会場の駐車場には台数に限りがありますので、公共機関での来場をお願いいたします。

ホームページでも紹介しています！

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☑印のついた行事は事前申込みが必要です。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベントの開催日の前日（午前中）までです。③定員になり次第締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

編集・発行

埼玉県立 **川の博物館**

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地
 TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332
 Eメール/web-master@river-museum.jp/



2015年11月13日発行

